

# YAMAKADO NEWSLETTER

NO.105

2008/08/20

山門水源の森を次の  
世代に引き継ぐ会

## 付属湿地・猪大暴れ



連日の猪侵入で荒らされた付属湿地（08/08/10）

7月30日夜県道から楽舎への進入路の法面から始まった猪害は、日毎に楽舎前の育種場所、湿地内部へと拡大した。いずれもミミズを探しての行動らしく、育種場所では植え替えを行って未だポットの下にミミズが生息していない部分は被害に遭わず、長期間放置していた部分を中心に被害に遭った。湿地内では、最初の段階は、ミツガシワの地下茎を掘り起こすことに始まり、ミミズのいる



進入路法面の猪害（08/07/31）



育種場所の猪害（08/08/01）

場所の掘り起こしと進んだ。掘り起こされた地下茎で残っているものについては、湿地内への埋め戻し作業を行った。これは湿地植栽を始めた時期に、上の湿原で猪害に遭ったミツガシワの地下茎を拾い集め湿地に埋め込んだものが翌年開花した経験があるからである。湿地内は上の画像のように飛び石もひっくり返すという散々な状態となったが、幸いサギソウの群生している部分は被害が少なく連日來訪者が開花の多さに圧倒されている。被害に遭った場所は、進入路については湖北振興局が他の場所については本会で復旧作業が完了している。一時期通電していなかった電柵も、現在は再度通電を実施しているので来訪時にはご注意下さい。





ミミカキグサとハッチョウトンボ

ハッチョウトンボとサギソウ

付属湿地のサギソウ（この部分は猪害を免れた）（08/08/16）



ヒツジグサの開花を撮影する小学生（08/08/04）

ちが 4 日間に分かれて訪れたが、終日湿地に出入りして目的の研究を行った。多くの人の出入りで、植栽している植物が、痛めつけられるということは起こるのだが、それは改めて補植等の作業を行えば復元することが可能である。

来訪者の便宜を図るだけでなく、私たち会員にとっても種々の生物の観察には最高の条件である。固定カメラで生物の動きを終日撮影したり、上の湿原ではゆったりと観察できないことが、ここでは腰を据えて調査できるのが有り難い。未だ湿原で種子採取ができていない植物もかなりあり、今秋に採取してほぼ全ての植物が付属湿地で観察できるようにしたいものである。

「やまかど・森の楽舎」付属湿地は、もともと上の山門湿原の内部に生物保護の観点から来訪者を入れないための補償目的で造成植栽を行ったのだが、ここに来てその目的は十分に発揮しているように思われる。例えば湿原内にも 8 月初旬からサギソウは開花を続けているが、一気に開花することではなく、あちこちに点在して次々開花してゆく。観察コースからは白い点の存在は確認出来ても、それを詳しく観察したり（HP「新着フォトライブラリー」3 ページ目参照）、撮影することは不可能である。付属湿地では、飛び石を使って内部に入り近接で様々な観察・撮影が可能で来訪者に好評である。

今年も地元小学生の自由研究に 19 名の子もた



( 08/08/16 )

オオシオカラトンボを喰うクロスジギンヤンマ

8 月 30 日（土）保全作業（楽舎の塗装）

9 月 13 日（土）西浅井町主催ハイキング「サワギキョウとキノコ」

いずれも会員は直接「やまかど・森の楽舎」へ